穂　学

令和３年度
広州日本人学校　学校便り
［No.3］
令和３年６月11日(金)
発行責任者 校長　加藤康徳

「本校の良さとは」

先月、令和３年度短期授業体験への参加を希望する保護者に挨拶をする機会がありました。

冒頭で私は「皆さんのお子さんが通っているインターナショナルスクールや現地校にも良いところがたくさんあると思いますが、広州日本人学校もたくさん良いところがあります。その良いところを本校のクラスメートと一緒に学校生活を送りながら実感してください。」と話をしました。

では、広州日本人学校の良さとは何なのか。私は以下のように考えています。

＜下校の様子＞

一つ目は、子どもを大切にしているところです。

（１）教員全員で毎日児童生徒の出迎えと見送りをしています。

（２）人権尊重の取組の一つとして、「さん」などの敬称をつけて児童生徒の名前を呼びます。

（３）生徒指導面では、問題をしっかりと捉え、児童生徒が納得するように教えています。

（４）全教職員が中学部の部活動に携わり、生徒の健全な心と身体を培い、豊かな人間性を育んでいます。※下記の写真以外に、音楽部、バドミントン部、野球部があります。

＜バレー部＞

＜バスケ部＞

＜サッカー部＞

＜職員室に GR-PDCA のイラストを掲示＞

二つ目は、教育計画を組織的に実施していることです。

（１）GR-PDCA に基づき、反省を生かして次の活動につなげています。

（２）「知・徳・体」をバランス良く育てることに重点を置いています。

（３）限られた時間、お金、人材、教材を工夫して効果的に運用しています。

三つ目は、教職員が研修熱心なところです。

（１）ベテランと若手の教諭がペアとなり、メンター制度や OJT 制度を参考にして、教師としての資質や能力の向上を図っています。

（２）日頃から積極的に公開授業を行っています。

（３）日本の教育の現状を全教職員で共有しています。　　＜校長便りで情報を共有＞
これからも広州日本人学校の「良さ」を大切にしていきたいです。

「感染症のクラスターを発生させないための取組」

本校では６月２０日までの期間を「新型コロナウイルス感染症拡大防止対策強化週間」と設定し、学校でクラスターを発生させないために以下の取組を実施しております。※取組の一部をご紹介いたします。

＜机の距離の確保＞

この棒の名前は「ジン・グー・バン」としました。（日本では「如意棒」）　※机間を測り、新型コロナウイルスから子どもたちを守りま

＜器楽の学習は指使いのみに限定＞

＜全教職員の PCR 検査＞

＜全児童生徒の PCR 検査＞

＜応接室にアクリル板を設置＞

＜こまめな教室の換気＞

＜休み時間の手洗いと消毒＞

＜校門での来校者の制限と検温＞

＜感染地域を毎朝確認＞

＜発熱時は隔離室で待機＞

＜ZOOM による打ち合わせ＞

＜登校時の体温チェック＞

○保護者の皆様へのお願いです。

中国では６月１２日から３連休となります。各ご家庭におかれましては広州市内の感染のリスクのある地域や建物に近づかないなど、休日であっても感染拡大防止にご協力ください。

※感染リスクのある地域や建物に近づくと「穂康（スイカン）」が緑色から黄色になり、解

除のためにPCR検査を複数回受けなければならなくなる可能性があります。
※広州市や各コミュニティから出ている感染防止対策の指示に従ってください。